

3. 学校活動と連動した地域活動による 子ども農業・農村体験

1) 長浜北小学校・PTAによる学校・地域活動としての 「わくわく田んぼ事業」「親子農業体験」

◆活動主体について

滋賀県は中央に琵琶湖を擁している。長浜市はその琵琶湖の北、湖北地方に位置。伊吹山をはじめとする山々に囲まれたこの地は太閤秀吉が治めた城下町としての歴史を有し、また東海道と北陸路が分岐する東西交通の要である。

PTAの本部事業として親子農業体験を実施している長浜北小学校は農家と住宅が混在している旧市街地にある。地域の教育に対しての考え方は多様だが、学校に対しては非常に協力的だという。長浜北小学校の児童数は856人（平成14年度）だが、農家の子どもは1クラスに2～3人程度。なお、障害者学級6クラスもこの農業体験に携わっている。

◆取り組みの経緯

長浜北小学校では平成10（1998）年度から子どもたちの発想を生かし、「行きたくてしかたのない学校」をめざす「アクティブ北小ときめきプラン」をスタート。「うさぎ小屋づくり」「心うたう森・虹色の大井川花壇づくり」「ログハウスづくり」「北小ビオトープづくり」というように年度ごと、学年ごとにテーマを決めて子どもたち自ら学校の改造に取り組んできた。「このときめきプランで農業体験ができるんだろうか」という前任の校長の提案で、県農政水産部が実施している「田んぼの学校推進事業」に応募したのが地域を巻き込んでの親子農業体験のきっかけとなった。この事業は小学5年生が対象で、その活動に対して3年間、助成金が出るというものだ。

平成11（1999）年、長浜北小学校では5年生を主体とした「わくわく田んぼ」をスタートさせた。地域の農家が「学校教育のためなら」と学校のすぐ近くの田んぼを貸してくれたこと、JAレーキ伊吹が農業指導をしてくれるという条

件が整ったことも活動に踏み切る大きな原動力になった。平成12年、前任校で「わくわく田んぼ」を実践してきた中川衛二校長が赴任してきたことで、農業体験は5年生以外の学年やPTA、地域へと拡がっていった。中川校長は「主体はあくまでも5年生だが、できるだけ大勢の子どもたち、そして保護者たちに農作業を体験してもらいたい」という。

「わくわく田んぼ」のスタート時は5年生が学校の隣の5aの田んぼで米づくりを、他の学年も学校の近くの田んぼや畑で農作業を体験した。2年目からは5年生の活動は「総合的な学習の時間」を活用し、アイガモやコイを使った有機農法にもチャレンジした。

PTAが親子農業体験を本部事業にしたのは学校週5日制の実施を先取りしてのことだ。土曜日の受け皿として親も子どもといっしょに田んぼ体験をしようと、圃場整備をしていない37.5aの休耕田をPTA、教員、JA職員、地域住民が協力し、人海戦術で耕した。こちらの活動は基本的に5年生とは別枠である。

田んぼの学校推進事業の3年間が終わった現在、長浜北小では滋賀県農協中央会主催の地域米消費拡大対策事業の指定校として支援（200万円）を受け、それを「わくわく田んぼ」や親子農業体験の活動に当てているという。

◆活動の概要

5年生の「わくわく田んぼ」の活動は主に「総合的な学習の時間」が当たられるが、PTAの親子農業体験は月1～2回、土・日曜日を当て、希望者を募って活動している。田植えや稲刈りの時には保護者、児童、教師、JA職員計200人ほどが参加している。参加者を4班に分けるが、学年を超えた仲間づくりのため児童は縦割りの編成にしている。

参加者は「アウトドアを楽しもう」「農業に親しもう」という1～2年生の児童とその親が圧倒的に多い。「低学年はまだまだ親子の結びつきが強いので、親子で体験することによって教育効果も期待できるのではないかと思っています。こういった活動は低学年にこそ必要かも知れません」と中川校長。田んぼでの

活動の後、今つくっている米の銘柄の「ひのひかり」のおにぎりをみんなで食べたり、近くにある滋賀県調理短大の指導員を招き、収穫米でサケずしやフルーツずしなどの作り方を指導してもらい、自作のすしを賞味するなどの工夫もしている。親子でつくった案山子は5年生の田んぼに立てられた。日常的な田んぼの管理はJA職員や教師、そして近隣の農家の人たちが行っているが、子どもたちも学校の休み時間を利用して田んぼに行き、自主的に観察や草取り、掃除をしているという。

一方、5年生は9月の「校外学習」で「お米の旅」へ。パールライスの精米工場や農業試験所などを見学し米について学ぶ。また、10月の稲刈り後に親子活動として、はさがけと足踏み脱穀なども体験する。11月の全校での「ときめき集会」では子どもたちが保護者の前で「ときめきプラン」の活動について発表するが、5年生は「総合的な学習の時間」で行った米づくりを劇や歌などにアレンジして披露した。

翌2月の全校での餅つき大会は餅を全校生徒に配るだけでなく地域を巻き込んでバザーを催し、餅を販売。その収益金（5～6万円）はユネスコやユニセフ基金に当てている。地域の農業祭でも長浜北小「わくわく田んぼ」のコーナーが設けられるようになった。年度末には1年間の成果をまとめた文集も発行。なお、長浜北小で収穫した米は地域の幼稚園や障害者学級などへも寄付している。

滋賀県では平成14年から各学校に「地域コーディネイター」という役職を置いている。地域コーディネイター役の教師は、農業体験におけるJAと担任、学校との調整を行ったり、ビオトープづくりの際に市との交渉を行ったりする。「総合的な学習の時間」をはじめとする地域ぐるみの学習には必要不可欠の役職といえよう。

◆成果と今後課題

県の「田んぼの学校推進事業」を活用した最初の3年間は準備期間。これからが本番だというが、農作業のための道具や地域やJAとのつながり、そしてノウハウもでき、すでに「北小に行けば、子ども親も農業体験ができる」という

地域の雰囲気はできあがってきている。農作業の腕前は教師もPTAもかなり上達。田んぼが学校のすぐそばにあるので、子どもたちが自然な形で農作物や支援してくれる人たちと親しめるのもいい。学校と地域、PTAと学校、子どもと親、異学年の児童同士の関係もほぐれ、環境はますます開かれてきた。

ただし、PTAの田んぼ37aは少々広すぎて管理が大変だとか（適性は10a程度か）。また、「校外学習」の貸し切りバスの代金などに当てているため、地域米消費拡大対策事業の予算（200万円）もすでに残り少ないという。今後、「わくわく田んぼ」や親子農業体験の活動資金をどう捻出するかも課題のひとつ。

さらに「わくわく田んぼ」についていえば、5年生が新5年生へ、5年生の担任が新5年生の担任へとノウハウをどう引き継ぐかも大きな課題である。

「体験のおもしろさだけにとどめず、子どもたちが記録したり反芻したり考えたりしながら労働、農業、環境、食文化、歴史などの知識も学ぶことができれば、活動はさらに幅広く深くなるはず」と中川校長。これから課題は活動を継続して行いつつ少しずつ内容を変えていくことだという。

資料1：活動概要資料

平成14年度 ご飯食体験事業

1. 実施事業名 平成14年度地域米消費拡大対策事業
2. 実施主体者 J A滋賀中央会（食糧事務所協賛）
長浜北食生活体験事業推進協議会
3. 実施対象者 長浜市立長浜北小学校 児童850名
長浜北小学校PTA
4. 実施場所 長浜市八幡中山地先ほ場（5a）畑（3a）
長浜市相模町地先ほ場（10a）
5. 協力団体 J A伊吹農業経済部営農課
長浜北小学校区営農有志会
長浜北小学校PTA
長浜市農政耕地課
長浜市教育委員会学校教育課
グリーンパワー長浜
6. 実施計画 4月25日 北小ご飯食体験事業実行委員会

4月下旬 ほ場準備（耕起・剝離割り・畦並み入等）
5月上旬 田植え活動
5月下旬～11月
○親子食体験活動
○たんぼ観察活動
○稲育て活動（水・雑草）
6月～11月 5年生農業施設見学会
親子日本食調理研修会
10月上旬 稲刈り活動
11月下旬 収穫祭
1月中下旬 葉細工活動
もちつき大会
2月上旬 活動のまとめ
7. 啓発活動 学校だより・PTA新聞・学年学級通信による広報活動
地方紙による実践活動記事掲載
8. 推進協議会委員
- | | | |
|------------------|-----|-------|
| ★大阪食糧事務所米原支所 | 所長 | 永田 敏一 |
| ★J A滋賀中央会会长職務執行者 | 副会長 | 廣瀬 竹造 |
| ★長浜市教育委員会学校教育課 | 課長 | 西橋 義仁 |
| ★長浜市役所農政耕地課 | 課長 | 蒲生 久司 |
| ★J Aレーク伊吹六荘支所 | 支所長 | 宮崎 正喜 |
| ★J Aレーク伊吹神照支所 | 支所長 | 宮村 喜平 |
| ★長浜北小学校PTA | 会長 | 高木 啓至 |
| ★長浜北小学校 | 校長 | 中川 衛二 |

資料2：平成14年度・年間活動計画（学校活動・地域活動）

月	5年生	北小PTA・児童・地域
4	◎米作りの専門家から話を聞く ◎子どもわくわく田んぼの計画を立てる。	◎事業関係者打合せ会 ◎は場の決定 ◎事業参加者の募集 ◎事業内容の策定
5	◎田植え準備 ◎草取り・観察 ◎総合的な学習に計画にそって	◎田植え準備 ◎草取り・観察・水管理 ◎親子食体験活動
6	◎わくわく田んぼ中間報告会	◎わくわく田んぼ観察会
7	◎は場周辺除草活動	◎は場周辺除草活動
8		
9	◎米づくり関連施設見学 習 ◎わくわく田んぼ観察記録	◎農業振興関連施設見学会
10	◎稲刈り活動 ◎収穫祭計画・準備	◎稲刈り活動 ◎日本食調理研修会
11	◎収穫感謝祭 ヒヨウシキフーラン ◎米づくり新聞の発行 (米づくりのまとめ活動)	◎収穫感謝祭 ◎食と環境の講演会
12		
1	◎餅つき大会計画	◎餅つき大会計画
2	◎餅つき大会 ◎こめ福祉活動	◎餅つき大会 ◎事業反省会
3	◎来年度計画	◎来年度計画

資料3：わくわく田んぼ事業の活動風景

